

2023年度 学校評価（自己評価・関係者評価）

学校法人帝京大学
帝京大学幼稚園

1・本園の教育目標

自然に囲まれ恵まれた環境の中で、豊かな情操を養い充実した集団生活の中で先生やお友達とのかかわり合いを通して、まず一人立ちできる子供という事を基本に「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域に基づき、“元気で丈夫な子”“素直で優しい子”“人に迷惑をかけない子”を育てることを目標とする。

2・本年度重点課題

1・教育の質の向上

通常保育、特別活動（体操・書道等）の両方において、子どもの日々の学びを積み重ねていけるよう、見直しと改善を図る。

各教職員が子ども達一人ひとりの個性を大切にしながら保育の内容の充実を図れるよう、研修等に積極的に参加をする。

2・安全管理について

緊急事態や感染症の流行時に備えて、訓練を行い、マニュアル等の再確認を行い状況に合わせて臨機応変に対応出来る様に努める。

3・環境設定

子どもに関わる人・物・場所の環境について、各年齢の幼児の発達に沿って学びの充実に繋がるよう、環境構成を行う。ICT ツールを活用し画像・動画・ZOOM 配信等、オンライン保育環境の充実を図る。

3・評価項目の達成及び取り組む目標・計画

	評価目標	評価	取り組み状況・結果
1	<p>教育の質向上</p> <ul style="list-style-type: none">・保育全体において、子どもの日々の学びを積み重ねていけるよう、見直しと改善を図る。・特別活動（心と体を育む体操教室）・特別活動（書道）	A	<ul style="list-style-type: none">・日々の保育・特別活動がこれまで行ってきた活動の繰り返しとなっていないか、内容が今年度の子どもたちの現状に適しているかなど、最良の学びが得られるよう、向上心をもって、見直し・改善を図れた。・学年ごとの成長に合わせた体操指導のもと、体の使い方を学び、体を動かす楽しさを味わう姿が見られた。他学年との合同の時間を作ることで、教えたり教えてもらったりしながらお互いに良い刺激となって取り組めていたと思う。子どもたちが自分で考え、発言して取り組めるように意識することで子どもたちが積極的に参加することができていた。・書道の活動における各学年のねらいを踏まえ様々な筆記具を用いて、子どもたちが自然と文字の読み

	<ul style="list-style-type: none"> ・特別（食育活動）（年中組） <p>・各教職員が子ども達一人ひとりの個性を大切にしながら保育の内容の充実を図れるよう、研修等に積極的に参加する。</p>	<p>書きに興味を持ち、就学時の基礎を身に着けられるような内容が行えた。全園児で書道部の書道パフォーマンスを見る機会や実際に年長児が書道パフォーマンスを体験出来たことも子どもたちにとって、更に書道に関心を持つきっかけとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った内容を学年で考え、活動内容を実施することができた。野菜を育てる経験を通じて、栄養についての話を様々なアプローチで繰り返し行った。1年を通して活動を行い、食育ボードなど新しいアプローチ方法を試したところ、子供たちのほうから栄養についての話が頻繁に出たり、保護者の方からも家で話しているという話を頂いた。 ・子ども各々の個性を的確に捉え、育ちを保証できる教育ができる能力を養えるよう、園外研修に参加し研鑽出来た。学びを共有する、学びを活かすと言う点で十分に普通の保育に取り入れることができなかった部分に関しては、改めて学びをどの場面でどのように取り入れられるかを考えながら保育内容に繋げていきたい。
2	<p>安全管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態や感染症の流行時に備えて、訓練を行い、マニュアル等の再確認を行い状況に合わせて臨機応変に対応出来る様に努める。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害や不審者対応・AEDの使用方法等、職員間で具体的な場面設定をした上での訓練が行えた。問題点や課題についても、回数を重ねるごとに、活発に意見が出るようになってきている。上級救命技能認定講習を受けた職員より、不測の事態に備えるための職員研修を行ったことでより学びを深められた。 ・状況に応じた避難訓練を通し、地震・火事・大雨と状況によって子ども達に対してそれぞれ違う避難の仕方を分かりやすく伝えることができた。
3	<p>環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関わる人・物・場所の環境について、各年齢の幼児の発達に沿って学びの充実に関わるよう、環境構成を行う。ICTツールを活用し画像・動画・ZOOM配信等、オンライン保育環境の充実を図る。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学年の年間指導計画や目標を基本とした上で、一人ひとりの発達に合わせた環境構成を心掛ける事が出来た。 ・新型コロナウイルス感染症の流行時に得たオンライン保育環境を感染症流行時に備えて、引き続き維持出来ている。 ・ICTツールは昨年度の行事の取り組みの様子を園児と見たり、運動会の活動において、子どもたちが自分たちの姿を客観的に見るために動画を活用した。

評価（A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった）

4・総合的な評価結果

3つの評価目標を重点的に行った結果、教育の質向上については、体操・書道や食育活動等の取り組みの内容の質向上に努め、その結果内容の充実、取り組みの成果が見られた。園児の安全管理については、職員間での連携する力も上がってきており、十分に成果があったと思われる。また、環境設定においては、保育活動にもICTを積極的に活用して一定の成果が見られたので、今後も内容の充実を図れるよう継続し、課題が見られた部分については、充実と向上を図っていけるよう努める。

5・今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育の質向上	通常保育、特別指導両方において、子どもの日々の学びを積み重ねていける様、見直し改善を図る。 各教職員が子ども達一人ひとりの個性を大切にしながら保育の内容の充実を図れるよう、研修等に積極的に参加をする。
2	安全管理	緊急事態や感染症の流行時に備えて、訓練を行い、マニュアル等の再確認を行い状況に合わせて臨機応変に対応出来る様に努める。
3	環境設定	各年齢の幼児の発達に沿って学びの充実に繋がるよう、環境構成を行う。 保育にもICTツールを活用し更に保育環境の充実を図る。

6・学校関係者評価委員会の評価と今後について

園の教育目標の元気で丈夫で素直で優しく人に迷惑をかけない子に育っていると感じる。通常保育・特別活動共に充実した内容で、先生方が立てられていた取り組みがしっかりとなされ、結果としてそれが示されていた。特別活動においては、体操の日に体を動かし、書道の日には作成したものを教えてくれ、何をやったか見ていなくてもしっかり本人たちに落とし込めている事が子どもの様子から分かった。食育に関しては、今まで食べなかった野菜を積極的に食べてみたり、家でも栄養について等、話す様子が見られ、書道パフォーマンス等、書道の取り組みを通して書く事が楽しく感じられるようになった様子が見られるので取り組みの成果があったと感じた。安全管理の面では、避難訓練の様子や怪我が起こった時の対応等より安全管理がされていると感じた。環境設定の部分では、大学生との交流や大学キャンパスへのおさんぽ等でのキャンパスの利用等がとても良い刺激になっていると感じ、SNS等を利用して子どもたちの日々の様子を知る事が出来る事、ZOOMの利用や保育にもICTの保育への活用の効果が見られる。また、剣道教室等の楽しい活動を増やして欲しいとの意見もあった。

今後についても、更に教育の質向上と充実を目指し、安全管理に努め、子ども達の心身共に成長を促し、学びを深めていけるよう取り組んでいきたい。

2023(令和5)年度 書道活動実施報告書

2024年3月1日

帝京大学幼稚園

*対象……全園児(年長・年中・年少児)

*講師……帝京大学書道部 書道部員(顧問 福井淳哉先生 監修)

<目的>

幼児書字教育プログラムは、園児たちが好奇心と創造力を育みながら、筆記具を扱うトレーニングを実践する中で、文字の書き方や形、音との関連性を学ぶための様々な活動を行います。そして、このプログラムを通じて、園児たちが好奇心や創造力を育みながら、文字を書く・読む力の素地を身につけ、来るべき小学校での学びをスムーズにスタートできることを目的としています。

(年少)筆で線を引く事に慣れる(たくましい線を身につける)

(年中)基本点画につながる用筆法の習得

(年長)毛筆書写の入口に立つ(線と字形を考えて簡単なひらがなとカタカナを書く)

<実施日時・場所>

年長…5/11、24、29、6/1、6、7/3、9/14、10/5、12、12/5、8、11、
1/19、29、2/20

年中…4/26、5/10、17、31、6/6、9/6、13、10/4、11、12/6、
1/24、31、2/5、19、3/8

年少…5/8、29、6/5、19、26、9/11、25、10/16、30、11/20、27
1/15、22、3/4、11

*時間……保育時間内の午前中 約 45分

*場所……帝京大学幼稚園保育室 帝京大学書道部活動教室

<実施内容>

・筆記用具について学ぼう・塗り絵・毛筆練習・硬筆練習・共同作品制作

・七夕製作・クリスマスカード作り・共同作品制作 ・書道パフォーマンス

<実施による効果>

書道の活動を通して、各学年のねらいを踏まえながら、様々な筆記用具を用いて子ども達が文字と読み書きに興味をもつ姿勢が見受けられた。楽しみつつ活動に参加できるように可愛いプリントなどの教材を用意して頂けたことで一層子ども達の目を引いていた。また、子ども達が興味を持って取り組むことで、好奇心や創造力を育みながら、文字を書く・読む力の素地を身につけ、文字を書くことを通した学び＝「書字教育」が、幅広い学びの連鎖を生み出す可能性や、園児の健やかな発育に十分寄与する事が出来ていた。

正しい鉛筆や筆の持ち方も繰り返し学んだことで、書道活動以外にも、お絵描き遊びにて安定した線が描かれる効果も見られた。

園外で行う書道パフォーマンスや校外展を通して、自身の発表した作品が周囲から反響を得る経験も経て、より文字への興味に繋がったと感じられた。

<書道教室実施写真>



2023(令和5)年度 食育活動実施報告書

2024年3月1日
帝京大学幼稚園

*活動名…野菜を育てることを通しての食育活動

*対象…年中・年少児

<目的>

- ① 植物の生長を楽しみ、喜びを知る ②命の大切さを学ぶ
- ③ 自然や季節を感じる ④食への関心を高める
- ⑤ 栄養に関する興味、知識の習得

<実施日>

*開催日…2023年5月9日夏野菜苗植え、種まき 水やり、週に1度観察

6月9日～毎日 栄養について三色食品群の話

6月13日～月に一度野菜の収穫、観察、食べる

10月13日冬野菜種まき 水やり、週に一度観察、食べる

*時間…保育時間中の主に10:30～12:00

*場所…園庭、年中組保育室

<実施内容>

- ・野菜の苗植え、種まき
- ・観察(観察シートを用いて)
- ・世話(間引き、水やりなど)
- ・育てた野菜を食べる
- ・三食食品群を使って栄養についてのお話(食育ボード)
- ・図鑑や絵本を使用し、野菜について調べる

<実施による効果>

野菜を育て、図鑑や観察シートを用いて調べたことで知識を増やすことができた。

また、野菜を育て、その野菜を食べたことで野菜に親しみを持ち、普段の給食などでも自分から育てた野菜を食べてみようとする姿が見られた。

野菜のみでなく、栄養についても三色食品群を用いた食育ボードを使用し、繰り返し話をしたことで、正しい知識を持ち、「赤グループのお肉を食べているから筋肉になるよ」などと自分から発信したり、自宅でも保護者に話す姿が見られたと沢山の保護者から話があった。

給食などで様々な種類の食べ物に挑戦できるようになり、食についての興味が増した。

食育活動



2023(令和5)年度 心と体を育む体育活動実施報告書

2024年3月4日

帝京大学幼稚園

*活動名・・・体操教室(心と体を育てよう)

*対象・・・全園児(年長・年中・年少児)

<目的>

近年、特に新型コロナウイルス感染症による自粛生活後に子どもたちの体力及び運動能力の低下が懸念されている事を受け、子ども達が楽しく体操を行いながら体力及び運動能力の向上を目指す。また、活動を通して協力する心、あきらめずチャレンジする気持ちを育てることを目的とする。

<実施日>

*実施日・・・4/20、27 5/11、18、25 6/1、8、15、22 9/7、14、21、28 10/5、12、26 11/2、9、16、30 12/7 1/18、25 2/1、15、22 3/7

*時間・・・10:00～12:00 基本的に学年別(内容によっては縦割りでいった)

<実施内容>

1・整列・挨拶 2・服装の点検・体調の確認 3・本日の内容についてのお話
4・準備体操 5・本日の主活動 6・整理体操 7・本日のまとめ 8・整列・挨拶

<主活動>

(年少)リズム体操・マット・かけっこ・フープ・なわ・鉄棒・ボール・運動会活動

(年中)・マット・バルーン・なわ・鉄棒・ボール・運動会活動

(年長)・かけっこ・リレー・集団体操・鉄棒・なわ・跳び箱・ドッジボール・運動会活動

(年少年中合同)・なわとび (年中年長合同)・ボール活動 (年少年長合同)・ボール

<実施による効果>

友達と一緒に体操教室に参加することで、走る・物を扱う運動を通して様々な基本動作を身に付き、楽しい活動を通して自然に全身の協応性、空間認知能力、回転感覚、リズム感、跳躍力を身に付けるきっかけや習得がみられた。

また、主に運動会活動では、体操の時間を通して友達と一緒に活動する楽しさを感じその中で生まれる規律、出来る様になった時の達成感、集団を通して協力する事を協調性、仲間とともにチャレンジする向上心が自然に身についてきている。

学年混合の活動を通してでは、年齢の高い園児は年下の園児に対しやさしくリードをしたり声掛けをする場面が多く見られ、年下の園児は上級生の動きや声掛けをよく聞き、見ながらチャレンジする姿が見られ、相乗効果によりどの園児もいつもより積極的に体操教室に参加する姿が見られた。

<体操教室実施写真>

